

筑波大学大学院の教育改革に関するアンケートへのご協力をお願い

企業の人事・採用ご担当者様

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

筑波大学では、大学院における人材養成機能の一層の充実・強化のために、現在の研究科・専攻を全面的に改組再編し、「研究群・研究類」(仮称)という新しい教育組織を設置して、その下で学位プログラムを運営する先進的な教育システムを構想し、実現に向けて準備を進めております。

学位プログラムは、多様化する社会の要請に的確に対応した人材養成目的を設定し、学生が身につけるべき能力を明確にした上で、その達成のために様々な研究分野の教員が現在の研究科・専攻の枠を越えて柔軟に協働し指導するものです。これを可能とする教育システムを構築するため、今回の改革では、現在の8研究科・85専攻からなる縦割りの組織構造を廃し、近接分野を包含した3研究群・6研究類を設置します。詳細については、別添の資料をご一読いただけますと幸いです。

こうした本学大学院の教育改革に関しまして、企業の皆様のご意見をお聞かせいただき、今後の貴重な資料とさせていただきますたく、アンケート調査を実施することいたしました。ご多用の折、誠に恐縮ではございますが、本アンケートにご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

本アンケート調査結果は、本学大学院の教育改革の検討資料、及び「研究群・研究類」設置手続のために文部科学省に提出する書類作成に係るデータとして利用させていただく予定です。ご回答はすべて統計的に処理し、目的外に使用することはありません。また、ご回答者が特定されることはありません。

ご回答いただきましたアンケート用紙(本紙)につきましては、平成31年2月1日(金)までに別添の返信用封筒によりご投函くださいますようお願いいたします。(又は、同日までに、別紙にてご案内しておりますWebサイトからご回答くださいますようお願いいたします。)

企業各社におかれましては、急激に変化する社会の中で、将来を見据え、常に変革と創造に挑戦されていることと思います。本学は、大学においても同様の挑戦が不可欠と考えており、今回の改革もそのような認識の下で全学を挙げて取り組んでいるところです。

末筆ではございますが、貴社の益々のご発展と皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

平成31年1月

筑波大学副学長(教育担当) 清水 諭

I 貴社の概要について教えてください。

問1 貴社の属する業種について、次の中から該当するものを○で囲んでください。(主たるものをひとつ)

- | | | |
|----------------------|-------------------|-----------------------|
| 1. 農業、林業 | 2. 漁業 | 3. 鉱業、採石業、砂利採取業 |
| 4. 建設業 | 5. 製造業 | 6. 電気・ガス・熱供給・水道業 |
| 7. 情報通信業 | 8. 運輸業、郵便業 | 9. 卸売業、小売業 |
| 10. 金融業、保険業 | 11. 不動産業、物品賃貸業 | 12. 学術研究、専門・技術サービス業 |
| 13. 宿泊業、飲食サービス業 | 14. 生活関連サービス業、娯楽業 | 15. 教育、学習支援業 |
| 16. 医療、福祉 | 17. 複合サービス事業 | 19. サービス業(他に分類されないもの) |
| 19. 公務(他に分類されるものを除く) | 20. 上記以外() | |

※上記の分類は、日本標準産業分類(総務省)による分類です。

問2 貴社の従業員数について、該当するものを○で囲んでください。

- | | | |
|-----------------|-------------------|-------------------|
| 1. 50人未満 | 2. 50~100人未満 | 3. 100~300人未満 |
| 4. 300~1,000人未満 | 5. 1,000~2,000人未満 | 6. 2,000~5,000人未満 |
| 7. 5,000人以上 | | |

II 本学大学院の改革構想に関してご意見をお伺いします。

問3 高度化・多様化する社会や学生のニーズに的確に対応していくために、幅広い学問分野の教員が協働して学位プログラムを担当することができる柔軟な教育システムへの移行について【説明資料：3 p, 5～7 p】

<構想概略> ※詳細については、説明資料3 p, 5～7 pをご一読ください。

本学では、高度化・多様化する人材養成のニーズに的確に対応していくために、現在の8研究科・85専攻を全面的に改組再編して3研究群・6研究類を新設し、その下で、修得する知識・能力を明確にした学位プログラムを運営する、新しい教育システムを構築します。

急激に変化し複雑な課題を抱える現在の社会において、細分化した領域に所属する教員が学生を指導する従来型の教育システムでは、多様化する人材養成のニーズに対応することが困難になってきています。

このため本学では、現在の研究科・専攻から、幅広い学問分野の教員が協働して学位プログラムを担当することができる柔軟な教育システムに移行します。これにより、各学位プログラムにおいて養成する人材像にふさわしい体系的なカリキュラム編成と最適な教員配置がなされ、社会や学生の期待に応える人材養成機能が充実します。

この構想について、どのような印象をお持ちになりましたか。該当するものを一つ選んで番号を○で囲んでください。

1	2	3	4	5
評価できる	ある程度評価できる	どちらとも言えない	あまり評価できない	評価できない

問4 本学大学院生が共通に修得すべき汎用的能力の明確化について【説明資料：8 p】

<構想概略> ※詳細については、説明資料8 pをご一読ください。

新しい教育システムでは、学生が修得すべき知識・能力を一層明確化し、その修得に向けた体系的なカリキュラムを編成します。その際、修士又は博士の学位にふさわしい高度な専門的知識・能力と高い倫理的意識の涵養とともに、社会の多様な場で活躍することのできる汎用的能力の獲得を目指します。

この汎用力は、本学が長年実施してきた企業関係者や卒業生等へのアンケート、産業界からの提言等を踏まえて、学位レベル（修士・博士）に応じて各5項目（①知の活用力／知の創成力、②マネジメント能力、③コミュニケーション能力、④チームワーク力／リーダーシップ力、⑤国際性）を設定します。

設定した汎用力、そして専門的知識や研究能力などの専門力は、それぞれ対応する科目・活動、評価の観点、評価の方法が明示され、自己の達成度評価が行われます。

これにより、変化の激しい社会において、学生が生涯にわたる活躍を支える力を涵養することを可能にします。

この構想について、どのような印象をお持ちになりましたか。該当するものを一つ選んで番号を○で囲んでください。

1	2	3	4	5
評価できる	ある程度評価できる	どちらとも言えない	あまり評価できない	評価できない

問5 研究能力と「現場力」を兼ね備えた人材の養成について【説明資料：9 p】

<構想概略> ※詳細については、説明資料9 pをご一読ください。

大学院教育には、研究・教育機関に限らず社会の多様な場でリーダーシップを発揮する高度な人材を輩出していくことが、これまで以上に求められています。こうした社会的要請を踏まえて、本学では、新しい教育システムの構築や汎用的能力の育成に取り組み、社会の多様な場で活躍できる人材を養成する機能の強化を図っています。

それらの取組と同時に、修士又は博士にふさわしい研究能力に加え、特に、社会における現実の具体的課題に即した「現場力」の養成を重視した学位プログラムが授与する学位を「専門学位」として位置づけます。これにより、それらの課題解決に向けて、学問分野を越えて協働し産官学の多様な場で実践的に活躍できる、研究能力と「現場力」を兼ね備えた人材の養成を推進します。

このような人材養成の例として、以下のものを構想しています。

- ・ビジネスの変革、技術の複雑化に伴う新たな経営課題に対応できる人材の養成
- ・新たなサービス方法を創造・実践し、結果を科学的に検証できる人材の養成
- ・山岳域の諸問題に対して的確な方策を講ずることができる人材の養成
- ・革新的医薬品・機能性食品の研究開発分野及びその保全と管理の分野で活躍する人材の養成
- ・スポーツの国際競争力の向上やスポーツによる健康寿命の延伸に貢献できる人材の養成
- ・文化遺産・自然遺産の保護に関してプランニングやマネジメントができる人材の養成 等

※「専門学位」は、社会の課題解決に積極的かつ的確に貢献していくために、本学が独自に設ける学位系統であり、授与する学位（修士・博士）の法令上の位置づけに違いはありません。

【問5-1】この構想について、どのような印象をお持ちになりましたか。該当するものを一つ選んで番号を○で囲んでください。

1	2	3	4	5
評価できる	ある程度評価できる	どちらとも言えない	あまり評価できない	評価できない

【問5-2】問5-1で「1」「2」と回答された方にお伺いします。上記のような研究能力と「現場力」を兼ね備えた人材の養成について、今後、そのような人材養成が期待される分野がありましたら、具体的にお聞かせください。（自由記述：どのような課題に対してどのように貢献できる人材の養成、など）

問6 大学院修了者が身につけるべき知識・能力について【説明資料：8 p】

本学大学院では、本学が長年実施してきた企業関係者や卒業生アンケート結果の蓄積、産業界からの提言等を踏まえて、大学院修了者（修士／博士）が身につけるべき知識・能力として下記 a～h を重視しています。貴社が社員を採用する場合に、これらをどの程度重視しますか。修士／博士別に該当する番号を一つずつ選んで○で囲んでください。

(1 とても重視する / 2 重視する / 3 ある程度重視する / 4 あまり重視しない / 5 重視しない)

<修士>

a 【知の活用力】 高度な知識を社会に役立てる能力	1・2・3・4・5
b 【マネジメント能力】 広い視野に立ち課題に的確に対応する能力	1・2・3・4・5
c 【コミュニケーション能力】 専門知識を的確に分かりやすく伝える能力	1・2・3・4・5
d 【チームワーク力】 チームとして協働し積極的に目標の達成に寄与する能力	1・2・3・4・5
e 【国際性】 国際社会に貢献する意識	1・2・3・4・5
f 【研究力】 対象分野における研究課題設定と研究計画を遂行するための基礎的な知識と能力	1・2・3・4・5
g 【専門知識】 対象分野における高度な専門知識と運用能力	1・2・3・4・5
h 【倫理観】 対象分野の基礎的研究能力を有する人材または高度専門職業人にふさわしい倫理観と倫理的知識	1・2・3・4・5
i その他 ()	1・2・3・4・5

※ a～h 以外に重視する能力がある場合には、「i その他」の括弧内に具体的に記入してください。

<博士>

a 【知の創成力】 未来の社会に貢献し得る新たな知を創成する能力	1・2・3・4・5
b 【マネジメント能力】 俯瞰的な視野から課題を発見し解決のための方策を計画し実行する能力	1・2・3・4・5
c 【コミュニケーション能力】 学術的成果の本質を積極的かつ分かりやすく伝える能力	1・2・3・4・5
d 【リーダーシップ力】 リーダーシップを発揮して目的を達成する能力	1・2・3・4・5
e 【国際性】 国際的に活動し国際社会に貢献する高い意識と意欲	1・2・3・4・5
f 【研究力】 対象分野における最新の専門知識に基づいて先端的な研究課題を設定し、自立して研究計画を遂行できる能力	1・2・3・4・5
g 【専門知識】 対象分野における先端的かつ高度な専門知識と運用能力	1・2・3・4・5
h 【倫理観】 対象分野の研究者または高度専門職業人にふさわしい倫理観と倫理的知識、および専攻する特定の分野に関する深い倫理的知識	1・2・3・4・5
i その他 ()	1・2・3・4・5

※ a～h 以外に重視する能力がある場合には、「i その他」の括弧内に具体的に記入してください。

問7 2020年度からの本学大学院の新しい教育システムによる修了生に社会での活躍を期待しますか。修士／博士別に該当するものを一つ選んで番号を○で囲んでください。

修士	1	2	3	4	5
	そう思う	ある程度そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない
博士	1	2	3	4	5
	そう思う	ある程度そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない

問8 問7で「4 あまりそう思わない」または「5 そう思わない」と回答された場合、その理由を教えてください。(自由記述)

問9 2020年度に設置予定の次の各研究類において養成する人材像(説明資料6～7pをご参照ください)は、貴社が求める人材像に適應すると思われますか。各研究類について、該当する番号を選んで○で囲んでください。

(1 そう思う / 2 ある程度そう思う / 3 どちらとも言えない / 4 あまりそう思わない / 5 そう思わない)

人文社会ビジネス科学研究群	人文社会科学研究類	1・2・3・4・5
	ビジネス科学研究類	1・2・3・4・5
理工情報生命研究群	数理物質科学研究類	1・2・3・4・5
	システム情報工学研究類	1・2・3・4・5
	生命地球科学研究類	1・2・3・4・5
人間総合科学研究群	人間総合科学研究類	1・2・3・4・5

III 社会人の大学院入学についてお伺いします。

問 10 社会人の大学院入学について【説明資料：10p】

本学大学院では、社会人の学修需要の高まり等を踏まえて、積極的に社会人学生を受け入れたいと考えています。そのために、各教育組織・学位プログラムの目的・特性等に応じて、入学者選抜における社会人特別選抜、昼夜開講制や長期履修制度による柔軟な履修方法、優れた業績を上げた場合には在学期間を短縮できる早期修了制度等を実施しています。また、東京キャンパスにおいては社会人を対象とした主に夜間開講制の大学院を設置して、有職者が学位を取得しやすい学修環境を整備しています（詳細については、説明資料10pをご参照ください）。

【問 10-1】今後、貴社の社員の方を本学大学院に派遣して学位を取得させたいと思いますか。該当するものを一つ選んで番号を○で囲んでください。

1	2	3	4	5
そう思う	ある程度そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない

【問 10-2】社会人の大学院入学に関して、障害となることがあれば教えてください。（複数選択可）

1. 業務との両立が困難
2. 経済的負担が大きい
3. 上司や同僚の理解が得られない
4. 通学に時間がかかりすぎる
5. 大学院修了のインセンティブが少ない
6. 大学院の学修は現場に生きない
7. その他（以下に具体的にお書きください）

IV 本学大学院の人材育成に関して、ご意見・ご要望・ご感想等がございましたらお聞かせください。

*** アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。***

■ 本アンケートに関するお問い合わせ先

〒305-8577 茨城県つくば市天王台 1-1-1

筑波大学 教育推進部 教育機構支援課

TEL : 029-853-2236

E-Mail : gm.kyouikukikou@un.tsukuba.ac.jp

参考

企業アンケート実施時に用いた説明資料 (平成 31 年 1 月時点)

2020年4月 筑波大学に 新しい大学院が誕生します

— 筑波大学大学院の教育改革 —

開かれた教育体制の下で
学生の個性と能力を開花させる学位プログラムを展開し
豊かな人間性と創造的な知力を養い
積極的に社会に貢献する人材を育成します



本資料の内容は筑波大学における構想（2019年1月現在）であり、今後変更する場合があります。（2019年度に文部科学省への設置申請手続きを行う予定）

筑波大学は、あらゆる面で「開かれた大学」という建学の理念のもと、従来の観念に捉われない「柔軟な教育研究組織」と次代の求める「新しい大学の仕組み」を率先して実現するために、「不断の改革」を進めてきました。

また本学は、総合大学としては他に例を見ない幅広い学問分野を有しており、専門分野を深化させながら、新たな学際・融合的な教育研究を積極的に開拓してきました。

教育研究と大学運営の全般にわたる本学の先導的な取組の成果は、各方面にわたって高く評価をいただいています^[*1]。しかし、急激に変化し複雑な課題を抱える現在の社会において、高度化・多様化する人材養成のニーズに的確に答えていくためには、従来型の発想を越えたさらなる挑戦が必要です。

本学は、学生の個性と能力の伸長のために、従来の組織の壁を越えて幅広い学問分野の教員が協働して教育にあたることができるよう、現在の研究科・専攻による教育システムから、「学位プログラム」^[*2]を中心とした新しい教育システムに移行します。

この新しい教育システムの下で、「学際性」と「国際性」という本学開学以来の特色を一層発展させ、また、他機関との連携・協働などこれまでの取組をさらに充実させ、本学の持てる力を結集して、社会に貢献していきます。

*1：各方面からの評価の例

<国内外の様々なランキング>

- ・創立50年未満の世界大学ランキング2019
国内1位、世界24位
(Quacquarelli Symonds 社)
- ・最も国際的な大学ランキング2018
国内3位、世界165位
(Times Higher Education 社)
- ・企業の人事担当者から見た大学のイメージ調査
総合首位
(2018/6/6付 日本経済新聞 朝刊)

<文部科学省支援事業>

- ・スーパーグローバル大学創成支援事業
中間評価「S」（最高評価）
- ・博士課程教育リーディングプログラム
・ヒューマンバイオロジー学位プログラム
事後評価「S」（最高評価）
- ・エンパワーメント情報学プログラム
中間評価「S」（最高評価）

*2：学位プログラム

学士・修士・博士といった学位の水準と養成する人材像に応じて達成すべき能力を明示し、その能力を学生が修得できるように体系的に設計された教育プログラムのこと。

グローバル化 第4次産業革命 保健・医療 環境・気候変動 防災 ...
 人生100年時代 少子高齢化 Society 5.0 資源・エネルギー 食料

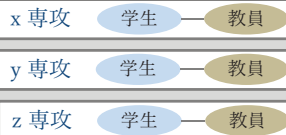
急激に変化する社会

深刻化する地球規模の課題

高度化・多様化する社会や学生のニーズに的確に対応

現在 < 8 研究科85専攻 >

X 研究科



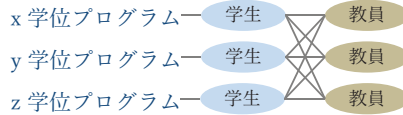
細分化した領域（専攻）に所属する教員が学生を指導する現在の教育体制では、様々な分野の教員の協働が困難

多様化する社会や学生のニーズに応えきれない

全面的に改組再編

改革後

A 研究群 X研究類



従来の組織の壁を取り払い
 幅広い分野の教員が協働して
 学位プログラムを担当する
 学生本位の教育システムに移行

- ✓ 教員の所属組織から独立した大括りの教育組織（3 研究群 6 研究類）を新設
- ✓ 学位プログラムごとに修得する知識・能力を明確化
- ✓ 養成する人材像にふさわしい体系的なカリキュラムと最適な担当教員配置

例えば...

山岳域の諸問題（気候変動、生物多様性、土砂災害等が絡み合う）に対応する人材養成のために、地球科学、生物科学、生物資源科学、環境科学の教員（現在は4つの専攻に分散）が協働して、山岳科学学位プログラムを編成

➢ 山岳科学の複数領域に跨る知識・技術を修得し、気象関連企業、林業・木材関連企業、アウトドア・観光関連企業、山岳域を抱える地方自治体、関連省庁、国立研究開発法人等で活躍できる人材を養成

本学大学院生が共通に修得すべき汎用力の明確化

現実の具体的課題に即した現場力の養成

他大学、企業、研究機関との連携・協働

本資料の内容は筑波大学における構想（2019年1月現在）であり、今後変更する場合があります。また、新設組織等の名称は仮称です。

改革の3つのポイント

① 新しい教育システム

5～7 p

従来の組織の壁を取り払い、幅広い分野の教員が協働して学位プログラムを担当する柔軟な教育システムに移行します

－ 社会や学生の期待に応える教育システムを構築 －

② 汎用力と専門力

8 p

高度な専門性ととともに、社会の多様な場で活躍するための汎用力の修得を目指します

－ 変化の激しい社会で生涯にわたる活躍を支える力を涵養 －

③ 研究能力と「現場力」

9 p

研究能力と「現場力」を兼ね備え、社会における現実の具体的課題の解決に向けて実践的に活躍できる人材養成を推進します

－ 当該課題にかかわる産官学の多様な場に人材を輩出 －

① 新しい教育システム

日本で初めて

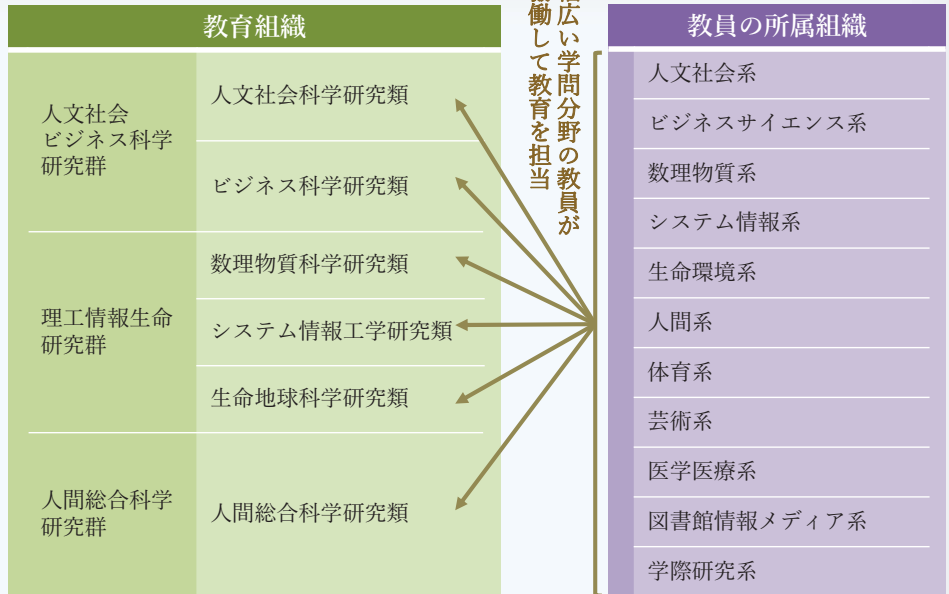
学位プログラムを中心とした教育システムに全面移行します

学位プログラムとは、学士・修士・博士といった学位の水準と養成する人材像に応じて達成すべき能力を明示し、その能力を学生が修得できるように体系的に設計された教育プログラムのことです。

従来型の教育システムは、研究科・専攻に教員が固定される縦割り型の組織構造のため、多様化する社会の要請や学生のニーズに的確に対応することが困難になってきています。

このため筑波大学では、これまでの研究科・専攻を廃止して、学生の教育のための組織を**研究群・研究類**（仮称）として新設し、教員の所属組織とは独立した組織とします。研究群・研究類は、近接分野を包含した大括りの編成とします。

この改革により、細分化した縦割りの組織構造から脱却し、様々な分野の教員が協働して、専門性の深化とともに学際的な教育研究や幅広い学修を一層充実させ、学生の個性と能力を開花させる学位プログラムを展開します。



3研究群6研究類に改組再編

現在
8研究科85専攻

- 固定的で細分化した現在の研究科・専攻を廃止して3研究群6研究類を新設します
- 各研究群・研究類は、近接分野を包含した大括りの教育組織です
- 各研究群・研究類の目的、各研究類に置く学位プログラムについては6~7頁をご参照ください

※ 専門職学位課程の2専攻、他大学との共同教育課程を編成する2専攻、外国の大学との国際連携教育課程を編成する2専攻は、法令の規定により、引き続き専攻として研究群の下に設置します。（上の表では記載省略）

本資料の内容は筑波大学における構想（2019年1月現在）であり、今後変更する場合があります。また、新設組織等の名称は仮称です。

研究群・研究類の人材養成目的（養成する人材像）

人文社会ビジネス科学研究群

ビジネス科学、人文学、社会科学に関する多面的かつ高度な教育研究を通じて、人間の価値や人と社会のあり方を時間軸、空間軸を交差させて総合的に探究することによって、新たな知を創造し具現化できる研究者、大学教員、高度専門職業人を養成します。

■ 人文社会科学研究類

人や社会の営み、人と社会の関係の考察・分析に係わる人文社会科学の基礎研究において優れた能力を有し、学問の進展や社会的要請の変化に応じて人類の知の継承に貢献し得る人材、またグローバル化の進展に伴う地球規模の課題や社会的課題に果敢に挑戦し、人間の存在や人と社会との関係の望ましいあり方を構想し得る独創性と柔軟性を併せ持つ研究者・教育者、及び高い専門性と実務能力を有する高度専門職業人を養成します。

■ ビジネス科学研究類

社会人を主たる対象にして、社会やビジネスで求められる高度専門職業人として必要な深い学識と卓越した能力を持ち、現代社会や組織が直面する諸課題の背景を探索し、かつ実効性の高い解決策を策定・実行することによって、社会の持続可能な発展に寄与しうる高度専門職業人を養成します。

理工情報生命研究群

総合科学技術を支える理学・工学・農学の基礎と応用、システム・情報・社会が融合・複合する学際新領域において、人間を取り巻く複雑で困難な問題を発見・解決できる独創的かつ行動的な研究者、大学教員、高度専門職業人を養成します。

■ 数理物質科学研究類

数理物質科学の基礎とその科学技術への応用に関し、高度な教育研究指導によって、現代社会の急激な変化に的確に対応できる基礎から応用まで幅広い視野と優れた研究能力を備えた研究者、大学教員、高度専門職業人を養成します。

■ システム情報学研究類

システム・情報・社会が融合・複合する学際領域において、グローバルな俯瞰力と多様で柔軟な思考力を持ち、現実世界の複雑で困難な問題を解決する独創力・発想力を備えてリーダーシップを発揮する研究者、大学教員、高度専門職業人を養成します。

■ 生命地球科学研究類

生命科学と地球科学、農学、環境科学に関する専門分野の深い知識と研究能力、研究技術を持ち、一方で、生命、人間、これらを取り巻く基盤である地球、自然、社会を幅広い視点でとらえ、独創的な発想で研究課題を発掘し、課題を解決する能力を持つ研究者、大学教員、高度専門職業人を養成します。

人間総合科学研究群

人間の心身及び諸活動に関する基礎から応用までの豊富かつ高度な教育研究を通して、固有の学問領域において高度でグローバルな視点に基づいた研究を計画実行でき、人間に関する幅広い知識をもち優れた学際的な学術研究を計画実行できる研究者と大学教員、及び複合的な視点から人間を捉え、柔軟かつ適切な援助・支援を研究・設計して社会的ニーズに対応できる高度専門職業人を養成します。

■ 人間総合科学研究類

人間の心身及び諸活動に関する基礎から応用までの豊富かつ高度な教育研究を通して、固有の学問領域において高度でグローバルな視点に基づいた研究を計画実行でき、人間に関する幅広い知識をもち優れた学際的な学術研究を計画実行できる研究者と大学教員、及び複合的な視点から人間を捉え、柔軟かつ適切な援助・支援を研究・設計して社会的ニーズに対応できる高度専門職業人を養成します。

※ 専門職学位課程の2専攻、他大学との共同教育課程を編成する2専攻、外国の大学との国際連携教育課程を編成する2専攻は、法令の規定により、引き続き専攻として研究群の下に設置します。（本表では記載省略）

研究群・研究類と学位プログラムの構成

人文社会ビジネス科学研究群	理工情報生命研究群	人間総合科学研究群
<p>■ 人文社会科学研究類</p> <ul style="list-style-type: none"> 人文学学位プログラム (M/D) 国際公共政策学位プログラム (M/D) 国際日本研究学位プログラム (M/D) <p>■ ビジネス科学研究類</p> <ul style="list-style-type: none"> 法学学位プログラム (M/D) 経営学学位プログラム (M/D) <p><専門職学位課程></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 法曹専攻 (P) ◆ 国際経営プロフェッショナル専攻 (P) <p>※ 各学位プログラムの教育は、その目的に応じて、学問分野を越えて結集した教員団が担当します。</p> <p>※ 学内だけでなく、外国の大学や、企業・研究機関の研究者も参画します。(連携大学院方式、協働大学院方式など)</p> <p>※ 各学位プログラムの授業科目・研究指導だけでなく、大学院共通科目、研究群共通専門基盤科目、研究類共通科目など、幅広い学修を可能とする科目群を開設します。</p> <p>※ 学生は、各々のキャリアを見据えていずれか一つの学位プログラムに属しながら、高度な専門力と社会の多様な場で活躍するための汎用力を養います。</p> <p>※ 名称の後の括弧書きは、次のとおり課程を表します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ M: 修士課程または博士前期課程 ・ D: 博士後期課程 ・ 5D: 5年一貫制博士課程 ・ 4D: 医学を履修する博士課程 (4年制) ・ P: 専門職学位課程 	<p>■ 数理物質科学研究類</p> <ul style="list-style-type: none"> 数学学位プログラム (M/D) 物理学学位プログラム (M/D) 化学学位プログラム (M/D) 応用理工学学位プログラム (M/D) つくば国際マテリアルズイノベーション学位プログラム (M/D) <p>■ システム情報工学研究類</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会工学学位プログラム (M/D) サービス工学学位プログラム (M) リスク・レジリエンス工学学位プログラム (M/D) 情報理工学位プログラム (M/D) 知能機能システム学位プログラム (M/D) 構造エネルギー工学学位プログラム (M/D) エンパワメント情報学プログラム (5D) ライフイノベーション(生物情報)学位プログラム (M/D) <p>■ 生命地球科学研究類</p> <ul style="list-style-type: none"> 生物学学位プログラム (M/D) 生物資源科学学位プログラム (M) 農学学位プログラム (D) 生命農学学位プログラム (D) 生命産業科学学位プログラム (D) 地球科学学位プログラム (M/D) 環境科学学位プログラム (M) 環境学学位プログラム (D) 山岳科学学位プログラム (M) ライフイノベーション(食料革新)学位プログラム (M/D) ライフイノベーション(環境制御)学位プログラム (M/D) ライフイノベーション(生体材料)学位プログラム (M/D) <p><外国の大学との国際連携教育課程></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 国際連携持続環境科学専攻 (M) 	<p>■ 人間総合科学研究類</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育学学位プログラム (M/D) 心理学学位プログラム (M/D) 障害科学学位プログラム (M/D) カウンセリング学位プログラム (M) カウンセリング科学学位プログラム (D) リハビリテーション科学学位プログラム (M/D) フロンティア医科学学位プログラム (M) 公衆衛生学学位プログラム (M) ヒューマン・ケア科学学位プログラム (D) パブリックヘルス学位プログラム (D) ニューロサイエンス学位プログラム (M/D) スポーツ学学位プログラム (D) 看護科学学位プログラム (M/D) 体育学学位プログラム (M) 体育科学学位プログラム (D) スポーツ・オリンピック学学位プログラム (M) コーチング学学位プログラム (D) スポーツウエルネス学学位プログラム (M/D) 芸術学学位プログラム (M/D) デザイン学学位プログラム (M/D) 世界遺産学学位プログラム (M/D) 医学学位プログラム (4D) 情報学学位プログラム (M/D) ヒューマンバイオロジー学位プログラム (5D) ライフイノベーション(病態機構)学位プログラム (M/D) ライフイノベーション(創薬開発)学位プログラム (M/D) <p><他大学との共同教育課程></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ スポーツ国際開発学共同専攻 (M) ◆ 大学体育スポーツ高度化共同専攻 (D) <p><外国の大学との国際連携教育課程></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 国際連携食料健康科学専攻 (M)

※ 専門職学位課程の2専攻、他大学との共同教育課程を編成する2専攻、外国の大学との国際連携教育課程を編成する2専攻は、法令の規定により、引き続き専攻として研究群の下に設置します。

本資料の内容は筑波大学における構想(2019年1月現在)であり、今後変更する場合があります。また、新設組織等の名称は仮称です。

② 汎用力と専門力

高度な**専門力**とともに
社会の多様な場で活躍するための
汎用力の修得を目指します

学位授与時に学生が備えているべき知識・能力を、汎用力・専門力の双方の観点から一層明確化し、その修得に向けた体系的な教育課程を編成します。

■ 汎用力

学生の専攻分野にかかわらず、本学大学院生が共通に修得すべき汎用力を明確にします。長年実施してきた企業・卒業生アンケートや産業界の提言等を踏まえて、学位レベル(修士・博士)に応じて各5項目を設定します。

■ 専門力

各研究群・研究類が対象とする専門分野・領域における研究力、専門知識、倫理観を中核として、各学位プログラムにおいて養成する人材像が備えるべき専門的な知識・能力を設定します。

■ 達成度評価

設定した汎用力・専門力について、対応する学修、評価の観点、評価の方法を明示し、達成度評価を行いながら学修を進めます。

社会の多様な場で活躍するための汎用的能力の育成

(本学が長年実施してきた企業関係者や卒業生等へのアンケート、産業界からの提言等を踏まえて設定)

知の活用力/知の創成力

- ・ 高度な知識を社会に役立てる能力 (修士)
- ・ 未来の社会に貢献し得る新たな知を創成する能力 (博士)

国際性

- ・ 国際社会に貢献する意識 (修士)
- ・ 国際的に活動し国際社会に貢献する高い意識と意欲 (博士)

コミュニケーション能力

- ・ 専門知識を的確に分かりやすく伝える能力 (修士)
- ・ 学術的成果の本質を積極的かつ分かりやすく伝える能力 (博士)

チームワーク力/リーダーシップ力

- ・ チームとして協働し積極的に目標の達成に寄与する能力 (修士)
- ・ リーダーシップを発揮して目的を達成する能力 (博士)

豊かな人間性と
創造的な知力を養い
積極的に社会に貢献する
人材を育成します

マネジメント能力

- ・ 広い視野に立ち課題に的確に対応する能力 (修士)
- ・ 俯瞰的な視野から課題を発見し解決のための方策を計画し実行する能力 (博士)

専門知識

- ・ 対象分野における高度な専門知識と運用能力 (修士)
- ・ 対象分野における先端のかつ高度な専門知識と運用能力 (博士)

倫理観

- ・ 対象分野の基礎的研究能力を有する人材または高度専門職業人にふさわしい倫理観と倫理的知識 (修士)
- ・ 対象分野の研究者または高度専門職業人にふさわしい倫理観と倫理的知識、および専攻する特定の分野に関する深い倫理的知識 (博士)

研究力

- ・ 対象分野における研究課題設定と研究計画を遂行するための基礎的な知識と能力 (修士)
- ・ 対象分野における最新の専門知識に基づいて先端的な研究課題を設定し、自立して研究計画を遂行できる能力 (博士)

修士または博士の学位にふさわしい
高度な専門的知識・能力と高い倫理的意識の涵養

本資料の内容は筑波大学における構想(2019年1月現在)であり、今後変更する場合があります。また、新設組織等の名称は仮称です。

③ 研究能力と「現場力」

社会における現実の具体的課題に即した**現場力**の養成を重視した人材養成を推進します

大学院教育には、研究・教育機関に限らず社会の多様な場でリーダーシップを発揮する高度な人材を輩出していくことが、これまで以上に求められています。

このような社会的要請を踏まえて、本学では前述のように、新しい教育システムの構築や汎用力と専門力の育成に取り組み、産学官の多様な場で活躍できる人材養成機能の強化を図っています。

■ 現場力を重視した「専門学位」

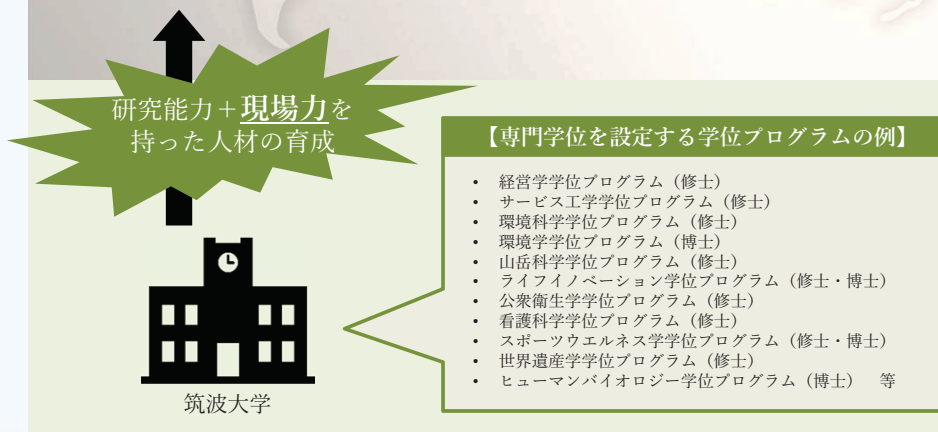
それらの取組と同時に、修士又は博士にふさわしい研究能力に加えて、特に、社会における現実の具体的課題に即した「現場力」の養成を重視した学位プログラムが授与する学位を「専門学位」として位置づけます。

これは、社会の具体的課題に積極的かつ確に対応していくために、筑波大学が独自に設ける学位系統です。授与する学位（修士・博士）の法令上の位置づけに違いはありません。

※「専門学位」と「専門職学位」について：「専門職学位」は法令に定められている学位の種類で、専門職大学院の課程の修了者に授与される学位です。専門職大学院は理論と実務の架橋を教育目的としており、論文作成は必須とされていません。「専門学位」は、法令上の「修士」「博士」の枠組みの中で、研究能力と「現場力」を兼ね備えた人材養成を推進するために本学が独自に設ける学位系統です。

筑波大学が育成する、現実の具体的課題解決に貢献する人材の例

- ◆ **ビジネスの革新、技術の複雑化に伴う新たな経営課題に対応できる人材**
 > 経営学学位プログラム（修士）<進路：民間企業、起業家など>
- ◆ **新たなサービス方法を創造・実践し、結果を科学的に検証できる人材**
 > サービス工学学位プログラム（修士）<進路：企業のサービス開発エンジニアや経営企画担当者など>
- ◆ **山岳域の諸問題に対して的確な方策を講ずることができる人材**
 > 山岳科学学位プログラム（修士）<進路：林業・アウトドア・観光関連企業など>
- ◆ **革新的医薬品・機能性食品の研究開発分野及びその保全と管理の分野で活躍する人材**
 > ライフイノベーション学位プログラム（修士・博士）<進路：製薬関連企業、食品関連企業など>
- ◆ **スポーツの国際競争力の向上やスポーツによる健康寿命の延伸に貢献できる人材**
 > スポーツウエルネス学学位プログラム（修士・博士）<進路：スポーツ関連企業、健康・医療関連企業など>
- ◆ **文化遺産・自然遺産の保護に関してプランニングやマネジメントができる人材 等**
 > 世界遺産学学位プログラム（修士）<進路：文化遺産・自然遺産保護や国際協力に関する公的機関など>



本資料の内容は筑波大学における構想（2019年1月現在）であり、今後変更する場合があります。また、新設組織等の名称は仮称です。

社会人の学修支援

社会人の期待に応える学修環境を整備し、**頑張る社会人を応援**します

社会経済の高度化とグローバル化が加速度的に進展する現代において、これまで以上にリカレント教育*への期待が高まっています。

筑波大学では、1989年に東京キャンパス（文京区大塚）において全国初の夜間大学院を設置するなど、古くから一貫して社会人の学修を支援してきました。

これまでの実績を基礎に、新しい大学院においても、各組織・学位プログラムの特性に応じて次の制度を活用し、有職者が学位を取得しやすい学修環境を充実させます。

- ① 社会人特別選抜
- ② 昼夜開講制
- ③ 長期履修制度
- ④ 早期修了制度
- ⑤ 夜間大学院（東京キャンパス）

*リカレント教育とは、義務教育または基礎教育の修了後、生涯にわたって教育と他の諸活動（労働、余暇など）を交互に行う教育システムのことを指すものとされています。

制度1：社会人特別選抜

- ・ 入学者選抜において、一定期間の就業経験を有する有職者等に対して、社会経験を考慮した特別選抜を行っています。

制度2：昼夜開講制

- ・ 社会人が在職のまま大学院の正規の授業を受けられるよう、昼間及び夜間の双方の時間帯において授業を行う制度です。
- ・ 有職者の学生が円滑に授業を履修できるよう配慮しています。

制度3：長期履修制度

- ・ 有職者等で通常の修業年限（修士・博士前期2年、博士後期3年）を超える長期の履修計画を立てる学生に対して、事前の申し出と個別審査に基づいてこれを認めるものです。
- ・ 長期履修学生の授業料（年額）は計画期間に応じて按分して設定されますので、費用負担の増加はありません。

制度4：早期修了制度

- ・ 優れた業績を上げた場合に、在学期間を短縮できる制度です。
- ・ 一定の研究業績や能力を有する社会人を対象に、標準修業年限が3年である博士後期課程を『最短1年で修了し課程博士号を取得するプログラム』を実施しています。これは、「頑張る社会人」を大学として応援するものです。
- ・ このプログラムでは2007年度の開始から2017年度までに338名を受け入れ、308名の修了生（うち265名は1年で修了）を輩出した実績があります。

制度5：夜間大学院（東京キャンパス）

- ・ 東京都文京区に位置する東京キャンパスでは、社会人を対象とした主に夜間開講制の大学院を設置しています。

※各制度の導入状況は組織・学位プログラム毎に異なります。 **IMAGINE THE FUTURE. 10**